

教皇フランシスコによる扶助者聖マリア大聖堂での講話（全文） サレジオ家族に向けて 2015年6月21日

「貧しい若者たちのためにリスクのある決断をしてください！」

親愛なるサレジオ家族の皆さん、私は皆さんにお伝えしたいことが沢山あると思っていました。それを紙に書くこともしたのです。しかし、それは形式的すぎます。ですから、私はそれを総長に送り、皆さんにその内容を知らせてもらうことができるようにしました。

私はある告解場で現総長にお会いしました。しかし、私は総長に告解しませんでしたし、総長も私に告解しませんでした。それはルハンの聖母マリアへの巡礼の旅の間の出来事でした。総長はちょうど10月にアルゼンチンに到着したばかりでした（アルゼンチン管区の管区長になるため）。1人のサレジオ会員の友人が総長とともにおり、総長は48時間の聖体礼拝の時に100万人の若者がその巡礼に参加したことを目にしました。1人の人が告解を終えて立ち去ったとき、そのサレジオ会員の友人と総長は私に近づいてきて「今度来た新しい管区長です」、と言いました。私は2人に言いました。「ああ！彼が私たちを支配するために来た方ですね（笑）」その後、私たちは良い関係性を発展させました。悪い時期でさえも...悪い時期も共にしたのです。私がこの総長から強い印象を受けたことは、彼の持つ奉仕と謙遜の精神でした。その後、彼は（管区長として）サレジオ会総会にやってきました。彼は落ち着いていました。スペインに戻る前にすでにその管区長の仕事を終えていたのですから。しかし、総会のメンバー達は総長に罾をしかけたのです...聖霊とともに（総長に選出されたということ）。

もう少し、私がサレジオ会員とともに経験したことについてお話させてください。私の家族はサレジオ会員たちとともに深いつながりがあります。私の父は、アルゼンチンに到着するとすぐに、イタリアの教会、聖カルロ小教区の扶助者聖マリア大聖堂にいるサレジオ会員のところへ行きました。その教会で、父は多くのサレジオ会員と出会ったのです。その後まもなく、父は1つのサッカーチームのファンになりました。サレジオ会員によって設立されたチームです！サレジオ会員は、聖カルロの大聖堂から500メートルほどのところに聖母マリアの色である赤と青を使ってサッカーチームを設立したのです。しかも、ストリートチルドレンと一緒にです。私にとって、そのチームはアルゼンチンで最高のチームで、多くの大会で優勝しました。

その後、父は近くに暮らしていた私の母に会いました。私の父と母は、生涯を通して私と父を見守ってくれた司祭のもとで結婚しました。その司祭は、パタゴニアから来たサレ

ジオ会の宣教師でした。私は、その司祭のところでよく告解をしたものでした。その司祭は私に洗礼を授け、私の召命を手助けしてくれました。私が神学校からイエズス会に入るとき、彼は私を手助けしてくれました。

私は、サレジオ家族にとっても感謝しています。私の母は5回目の妊娠をしてから1年間、体が麻痺した状態でした。その司祭は私たち年長の子どもたちをサレジオ会の学校に送ってくれました。私はその中の1つで小学校生活を終えました。私はそこで聖母マリアを愛することを学びました。サレジオ会員は、美しさ、仕事について私に教えてくれました。それが皆さんのカリスマです。サレジオ会員は愛情深く感情面での成長を教え、少年たちの中でそれを伸ばさせてくれました。

私は、素晴らしい憐れみ深いサレジオ会の聴罪司祭を覚えています。大聖堂には多くの聴罪司祭がいました。後に私の父が亡くなり、その後、その聴罪司祭も亡くなりましたが、5月24日が来るたびに、私は扶助者聖マリアのもとを訪れました。私は花を持っていき、おとめマリアに祈りました。これが私が皆さんから受け取ったことです。しかし、私が特に覚えている1つのことは感情面での成長です。私は、ドン・ボスコが少年たちの感情の成長を励ますことができたと思っています。なぜなら、ドン・ボスコには自分の感情面を育ててくれた母親がいたからです。ドン・ボスコの母、マルゲリータを理解しなければ、ドン・ボスコを理解することはできません。ドン・ボスコを理解するためにはマルゲリータを理解する必要があります。今日サレジオ会員とサレジアン・シスターズ、そしてサレジオ家族全体は、息子の心を導いたこの女性、マルゲリータのように少年少女たちを導くことができるでしょうか。私はこのことを強調したいと思います。

他にもあります。19世紀末の時代、ドン・ボスコが生きたイタリアの地域には、フリーメイソン、極端な反聖職者主義、悪魔的な、本当に悪魔的な！思想がありました。トリノは悪魔的な場所の1つでしたが、そこからどれほど多くの聖人が輩出されたのでしょうか。数えてください！ 主はこの地に生まれた多くの家族に使命を与えられました。現代において、多くのことが改善されました。コンピュータがあり、とてもたくさんの物があります。しかし、若者を取り巻く状況は多かれ少なかれ同じといえます。ドン・ボスコは何をしたのでしょうか？ ドン・ボスコは、教育を受けられず、仕事のない通りにいる子どもたちと共に働きました。ドン・ボスコは自分の聖職を危険にさらしました。それ故に、ドン・ボスコは批判されたのです。

ドン・ボスコは自分の聖職を危険にさらしました。「こいつらはクズさ。彼らのためにできることなんて何もない...。」現在、イタリアでは、25歳以下の40%の若者に仕事がありません。彼らは学ぶことも仕事もできません。サレジオ会員の皆さんは、ドン・ボスコが

直面したことと同じ難問に直面しています。このような少年少女たちをひきつけてください。ドン・ボスコは何をしたのでしょうか？ スポーツです！ スポーツは親交、健康的な競争を与え、競争は共に働くことの美しさへ導きます。そして、教育です。ドン・ボスコは多くを語りはしませんでした。ドン・ボスコは職業訓練をする小さな学校をつくりました。これらのサレジオ会の学校では手工業を教え、子どもたちはその技術を学びました。

サレジオ会員は今この技術を人々に教えることができますか？ 私はわかりません。私は質問するだけです。私はわかりません。人は6か月で電気技術者や配管工になることを学ぶことができるのでしょうか？ 教育、そうです、しかし教育はその危機に対応しなければなりません。皆さんはストリートに住む子どもたち、私はアルゼンチンのことを考えていますが、彼らがすぐに高等学校に行くことができますと思いますか？ 彼等に何かすること、今日はここにありますが、明日はなくなってしまうかもしれない小さな仕事を与えましょう。緊急の教育であり、今日ストリートにいる子どもたちはそれを必要としています。それらの仕事は長く続くことはないかもしれませんが、少なくともそれらは実用的な技術と言えます。後のことは後のことです。この40%の若者は何かを必要としています。サレジオ会員は創造的にこの挑戦に応じるべきです。

私が学んだことがほかにもあります。それは若者を喜びへ、サレジアの喜びへ導いたということです。私が決して忘れたことのないことです。それは主が私たちに与えてくださったすべてのことから導かれる喜びで、美しいことです。奉仕と教育です。通りにいる子どもたちに食べ物を与えましょう。空っぽのお腹で主を賛美することは不可能です！ どうすれば彼らを成長させることができるのでしょうか？ 創造性を用いるのです。教育は危機から必要とされることに対応できるものでなければなりません。私が皆さんにお伝えしたいのはこのことです。

ロレンツォ・マツァという司祭は何をしたのでしょうか？ 彼は1908年にサッカーチームを設立しました。彼はスポーツを奨励しました。彼はストリートの子どもたちに神秘的な何かを与えました。その子どもたちは薬物取引人だったかもしれませんし、薬物中毒者であったかもしれませんし、彼らの多くは自殺したかもしれません…。でも、彼はその子どもたちが前に進むための何かを与えました。私はこのことを皆さんにお話しさせていただきたいのです。現在の危機は実際に深刻であり、教会に敵対することさえあります。しかし、ドン・ボスコは彼の3つのけがれの愛、マリア、聖体、教皇について語ることをためらいませんでした。

3つの愛です！ ドン・ボスコはマリアを恥じることはありませんでした。なぜなら、ドン・ボスコは自分の母親を恥じることがなかったからです。現在、多くの人々は…。私はひどく傷ついたことを1つ覚えています。1980年、私はコルドバのカトリック大学の寄付

者との会合のためにベルギーに行きました。後で私は教会に通うカトリック信者で 4 人の子どもがいる教授の結婚の晩餐に、招かれました。そのテーブルで、彼らは神学、キリスト論、教会の状況について語り始めました。その時、彼らは「現代においてもはや Мария はなじまない。神のおかげで私たちはその段階を乗り越えることができた」と言ったのです。でも、彼らは良い人たちなのですが...

現在でも、皆さんは含まれませんが、聖母 Maria について恥ずかしがるわけではないですが、ドン・ボスコのように愛をもって語る事のない人々もいます。ドン・ボスコが第一に愛していたものは聖母 Maria でした。ドン・ボスコは、おとめ Maria に祈り自分自身を神に委ね、多くの危険をおかしました。ドン・ボスコの 2 番目の愛は聖体でした。よく準備された典礼は、サレジオ家族が得意とし、上手に説明されるので、子どもたちが聖体の神秘を体験する助けになります。このことは、サレジオ会員が何回も行う聖体礼拝についても同じです。これは良いことです。教皇もそうしています。なぜなら、ドン・ボスコは教会、Maria、自分の母親を愛していたからです。そして、教会における女性の神秘である皆さん奉獻された女性たちも愛していました。教皇に対する愛は 1 人の人間に対する愛だけではありません。それは、教会の花婿の代表者としての、教会の長上としてのペトロへの愛です。しかし、教皇に対する純粋な愛の背後には教会に対する愛があるのです。

私はドン・ボスコがどのようにある種のスキャンダルを隠したり説明したりできたのかわかりません。しかし、ドン・ボスコは人々に教会を愛するようにさせることができました。ドン・ボスコはやったのです！ 例えばこの関係性を見てください。母としての教会、母としての聖母 Maria、ドン・ボスコの母、マルゲリータ。皆さんは母親になるべき若い女性たちを準備しますが、彼女たちは子どもたちをおとめ Maria と教会を愛するように育てるべきです。時々、人々は次のように私にたずねます。「教会の女性について、より思い切った決断が必要ではないですか？」もちろんです。ですが教会の女性は、いわば、聖母 Maria が聖霊降臨の朝、使徒と共に持っていたのと同じ仕事を持っているのです。使徒たちは Maria がいなければ何もしませんでした。イエスがそれを願ったように。

3 つの純粋な愛を忘れてはいけません。聖母 Maria について語る事を恥じてはいけません。ミサを執り行いそれを立派にすることを恥じてはいけません。そして聖なる母なる教会を恥じてはいけません。悲しむべきことに、聖母 Maria は毎日攻撃されています...。このことは、私たちに教会における女性の役割について教えているはずですが、ドン・ボスコの純粋な 3 つの愛はいつも私たちをこの道に導きます。そして神への信頼に導いてくれます。私がお話したように、ドン・ボスコはいつも扶助者聖 Maria に祈りをささげてから前へ進んでいました。ドン・ボスコには他にどんな考えもありませんでした。

私のサレジオ体験について言及するならば、それは寄宿舍でのことであり、ほかにはありません。私は公立の学校で残りの教育を受けました。私の家族はサレジオ会員に、そして扶助者聖マリアと深いつながりがあります。私はよくサレジオ会員に、「扶助者聖マリアの恵みを私に与えてください」と頼みました…。私はこの経験について神に感謝しています。この経験は、私が恐れることや欲望に執着することなく育つことを助けてくれました。また、この経験は、私が喜びと祈りの中で前進することを助けてくれました。皆さんのカリスマは現在において深い意味があります。通りを見てください。子どもたちを見てリスクのある決断をしてください。恐れてはいけません。ドン・ボスコは恐れませんでした。

皆さんが教会の中で、そして教会のためにしてくださったことに感謝いたします。宣教師となったださり本当にありがとうございます。多くのサレジオ会員はひっそりとアフリカにいます…。このことは、パタゴニアでの初期の日々を思い起こさせます。そのころ、修道女は当時の修道服を着てパタゴニアを旅したのです。どうやって馬に乗っていたのでしょうか。彼女たちはパタゴニアを福音宣教しました。私たちは知っています。サレジオ会員がパタゴニアで殉教したことを…。

私はパタゴニアにこだわっているのではありませんが、ドン・ボスコはそのことについて夢を見ました。ドン・ボスコがそこへ人々を送ったのです。初期のサレジオ会員はたくさん良いことをしました。常任委員会の司教と共にアパレシーダでの列福調査会議を開くための場所を確保するために私たちのところへ来たこの総長は、その時のことをおそらく覚えています。卒業生たちが来られるようにブエノスアイレスで会議を開催する、というよい提案があったのです。私はそれに反対しました。皆さんは覚えていますか？ いいえ、その列福式はパタゴニアで開催されるべきだったのです！ パタゴニアは街ではありません。ベルトーネ枢機卿は、その列福調査会議を行った人ですが、覚えているはずです…。そこは野原だったことを！

物事の具体性を持っていないサレジオ会員は…何かを欠いている人々です。サレジオ会員は具体的であり、問題を見つめ、世話することを考えるのです。結局、私は言いました、「大司教として私はそれを許さないだろう」と…。宣教師になることについて、私は皆さんにあることを言います。パタゴニアの 1 つの地域は司祭たちによって見放されたということ。そこにはサレジオ会員は誰もいませんでした。15 年後、福音主義者たちがやってきました…。その地域の人々はひどく隔絶されていましたが、とても宗教的な人々でした。人々は神の言葉を聞くことを願い、牧師に会いに行きました。人々はほとんど改宗したのです。小教区の司祭がもう一度派遣されたときある 1 人の教育を受けた女性は司祭に対してひどく冷淡でした。サレジオ会員はその地域に多くの宣教施設を持っていましたが、局的には不在だったのです。

その女性は人々を放置したことでその司祭を非難し、つらく当たりました。最終的に、その司祭は許しを乞いその場を去ろうとしたとき、その女性は司祭を呼び戻しました。その女性は司祭に扶助者聖マリアの像を示しました。「私は今福音主義者ですが、このマリア像を放棄しないつもりです。私はこの像を牧師が見ないように隠しました。」

これが皆さんの宣教師の仕事です。皆さんが教会でしてくださったすべてのことに感謝いたします。

